

令和5年度

# 幼稚園だより 2月号



文京区立千駄木幼稚園

## 三学年三様の凧作りに思うこと

副園長 矢澤 弘美

朝夕は冷え込みますが晴天の日が多く、子どもたちの作った凧が園庭や屋上の青空に映えています。

年少児の凧は、レジ袋に絵を描き、担任に凧糸を付けてもらうと、すぐに揚げられるものです。友達や担任の姿を見て「自分も同じようにやってみたい。凧がほしい」と思ったその時、すぐに取り組めるように、簡単な工程にしてあります。自分の後ろから付いてくる凧がつい見たくなり、何度も振り返りながら嬉しそうに走る姿が見られます。

年中児の凧は、気泡のある梱包用ビニールシートを切って作るものです。この素材は、「ビニールをハサミで切るのは年中児にはまだ難しい。いい方法はないかしら」と担任たちが考えて選んだものです。薄いビニールよりもハサミで切りやすく、年中児は、新たな素材との出会いや自分で作ることを楽しんでいました。風を受けてフワッと揚がる感覚が面白く、繰り返し取り組んでいます。

年長児の凧は、レジ袋を切り開き、竹ひごを貼ったカイト型です。左右対称にしたり、竹ひごを真っすぐに貼ったりとバランスを意識しながら作っていました。うまく風に乗ると、空高く揚げられます。繰り返し揚げているうちに、「いい風がきた」と風の強弱や向きに気付いたり、「何だかくるくる回ってしまう」と凧を調整したりする姿がありました。

3学年ともに、破れにくいビニール素材の凧ですが、ビニールの種類や作り方はそれぞれ違ってきます。“その学年に、その学級に、あるいはその子に必要な経験は何だろう。” “その時期に必要なこと、楽しんでいることがより経験できる環境や援助はどうしたらよいだろう。” 私たちはこのように考えて、日々の保育を組み立てています。

本園では毎月の園内研究の一環として、学期に1回、講師を招いて「指導研究」を行っています。今月は、様々な園、様々な保育をよくご存知である講師に本園の遊びや生活の様子を見ていただきます。客観的に、たくさんのご指導をいただけたと思います。

それぞれの学年の発達に合わせた凧作りのように、保育を掘り下げて考える機会を大切に、そこで得た気付きや学びを子どもたちとの日々に活かしていきたいと思います。



年少組「凧が後ろからついてくるよ」



年中組「友達と一緒に揚げよう」



年長組「風にうまく乗った！」